

# 中体連全国大会を終えて

東海大学附属第四高等学校中等部

嶋村 圭太

## <全道大会までの経験>

今年のチームは、数名去年のチームから試合に出ていた選手がいましたが、当初はスーパーエースとなる選手がいませんでした。しかしながら、選手の起用に何度も悩むぐらい、チーム内でも実力が拮抗していて、「総合力」や「層の厚さ」という面では、非常に面白いチームになる可能性があると考えていました。

3月のオールスター関係の大会が終わって、すぐに北海道カップ、春季大会、道外遠征(春日部カップ)と例年通り休む間もなく試合が続きました。2月から3月にかけてはチームとして試合をすることがほとんどできなかつたので、これらの大会を通して、少しずつチームとしての戦い方を取り戻していくような感じでした。ケガなどが続き、ベストな状態でゲームをすることが中々できなかつたので、改めてチーム力でカバーするスタイルが確立されていきました。

そして迎えた7月の全市大会。美香保体育館での戦いは厳しいものになるだろうと想定はしていましたが、本当にその通りの展開になってしまい、清田中に敗戦。相手にとっては後がない状況で、絶対に受け身になってはいけないと確認していましたが……相手選手の必死に頑張る姿に圧倒されてしまい、逆に我々が追い込まれる状況となってしまいました。「崖っぷち」の中で、選手が厚別中戦で実力を発揮してくれて、無事に全道大会に出場することができました。

全道の組み合わせが決まり、対戦する(もしくは対戦することになるであろう)チームがどこも実力があり、正直「嫌だなあ」という気持ちも沸きましたが、逆に緊張感を持って1つ1つ戦うことができるという考えに切りかえて、チーム一丸となって臨むことができました。特に中標津中戦や北見北中戦では、相手にリードを許す場面がありましたが、これまでの敗戦した経験が生きたのか、劣勢の展開でも選手たちは自分達のプレーをしっかりと取り戻し、踏ん張りきることができました。決勝戦では清田中にもリベンジを果たし、何とか大会4連覇を達成することができました。

## <全国大会に参戦して>

今年の開催地は静岡県ということで、例年通り暑い!という衝撃を受けましたが、今年の3年生も3年連続で全国大会を経験していることもあり、少し慣れているようにも見えました。これも彼らの先輩達がさせてくれた経験に基づいているのだな、と改めて感じました。さらに四高を担当している小柳トレーナーにも合流していただき、力強いバックアップも得た中で、ケガは多少あったものの、コンディションについては比較的安心した状

態で、大会に臨むことができました。(ただし、予選リーグで対戦する2つのチームと宿舎が同じになってしまうというハプニング(?)もあり、前日の宿舎には何とも言い難い雰  
囲気が漂っていました…)

#### ・予選リーグ vs 桜町中 (岩手)

事前のスカウティングでは、ポジションのバランスが良いチームで、ガードのスピード  
や思い切った外のシュートが印象的でした。

序盤、相手の硬さが見られ、ターンオーバーが目立ち、その間にこちらのシュートがよく決まり、第1ピリオドで奪ったリードで優位に試合を展開することができました。実際  
に対戦してみると、オールラウンダーの4番、インサイドの10番が核となっていて、特に  
インサイド同士の対決が激しいものでした。外枠のシュートではこちらにアドバンテージ  
があり、危ない場面もありましたが、ディフェンスで何とか我慢し、逃げ切る形での勝利  
となりました。75-65

#### ・予選リーグ VS 久米中 (愛媛)

事前の情報はあまりありませんでしたが、休憩中に全員で桜町 vs 久米の対戦を見て、身  
長は低いですが、豊富な運動量でかなり激しいディフェンスをしてくる印象を受けました。こ  
ちらとしては高さで有利だったので、相手の鋭いドライブに、1対1あるいはチームディフ  
ェンスでしっかりと守ることを貫きました。序盤で相手の勢いをある程度防ぐことができ  
たので、後半相手の流れとなる時間が生まれてしまったものの、最終的には全員コートに  
立たせることができました。72-46

昨年度の1勝1敗で並んだことに比べると、しっかりと戦って1位突破を決めることが  
できました。選手たちは昨年の経験をここでも生かし、自分達の戦いをすることができ  
ていました。

その夜、抽選会にて決勝トーナメントの組み合わせが決まりました。宿舎では同リーグ  
で敗退した久米中の主力選手にエレベーターでバッタリ会い、「試合直後にちょっと気まず  
いよなあ…」と思っていたら、逆に彼の方からさわやかな笑顔で「応援してます。頑張っ  
てください!」と言われました(トーナメント初戦の相手は同じ愛媛の松前中だというの  
にも関わらず…)。彼の姿に非常に感銘を受け、札幌の予選の時から含め、負けたチーム  
の分まで背負っていることを改めて感じる出来事で、気合が入ったのを覚えています。

#### ・決勝トーナメント1回戦 vs 松前中 (愛媛)

再び愛媛の中学校が相手ということで、かなり分析されてくるだろうと想定していまし  
た。案の定、前半は相手にペースを持っていかれる場面もあり、とても苦労しましたが、  
後半に徐々に相手のポイントを抑え、ディフェンスからの速攻というリズムを作ることが

でき、終盤には突き放すことができました。最終的には交替した選手も含めて、総合力で自分達の特長を生かし、しっかりと戦うことのできたゲームでした。74-53

・決勝トーナメント2回戦 vs 西福岡中（福岡）

いよいよ迎えた優勝候補との対戦。相手の激しいプレスディフェンスにどこまで嫌がらずに戦えるかがカギでした。そして多くの選手を起用し、ツープラトンで新鮮な選手が活躍するという相手の特徴を見ても、こちら選手たちの個性をしっかりと引き出し、総力戦で戦う必要があると考えていました。

序盤は外のシュートもよく決まり、プレス運びもそこまで苦勞せずにできていましたが、第2ピリオドでミスが続くと、それを待ち構えていたかのように一気に相手に畳み掛けられる展開となってしまいました。

後半、ゾーンディフェンスでリズムを変える中で、少しずつプレーを取り戻すことができましたが、点差を縮めるには至らず。第4ピリオドでは気持ちを出し、こちらのプレスディフェンスがよく効いて、外のシュートも次々決まり、あわやという所までは行きましたが、最終的に52-68で敗れました。

<終わりに>

西福岡戦では前半で差がついてしまい、苦しい戦いとなってしまいましたが、選手たちは諦めない姿勢を貫いてくれました。昨年悔しい思いをした分、後半の戦いで意地を見せてくれて、彼らが様々な経験を経て、本当に成長してくれたことが今回の財産です。と同時に、あと少しで届きそうな喜びに導くことができなかつたことに、指導者として深く反省しています。そして何よりも、その試合で北海道代表のチームの皆さんが、どこよりもアツい応援をしてくださったことが、彼らの後押しとなったことは言うまでもなく、心より感謝申し上げます。本当に、北海道のチームとして誇りに思う瞬間でした。

最後になりましたが、私達の活動に関わってくださった全ての方々に感謝、御礼申し上げます。本当にありがとうございました。